宮崎市立小中学校の小規模化に対応した「魅力ある学校づくり」の考え方
〔概要版〕

1　策定の背景と目的

- 学校は、未来を担う子どもたちを教育する大切な場であることに加え、「地域コミュニティの核」としての重要な役割も担っています。
- 本市においては、昭和６１年をピークに児童生徒数の減少が進んでおり、今後、学校の小規模化に伴う課題の顕在化が懸念されています。
- このため、本市では、学校が小規模化しても「魅力ある学校」として存続させるため、「宮崎市立小中学校の小規模化に対応した「魅力ある学校づくり」の考え方」を策定しました。

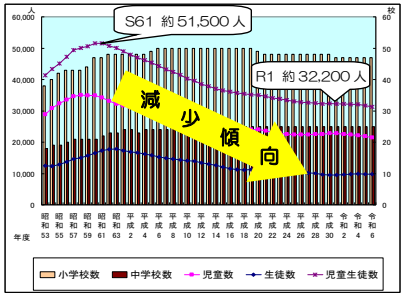
策定の目的
◎学校が小規模化しても「魅力ある学校」として存続させる
◎学校の小規模化の課題を整理する
◎小規模化に対応する方策をまとめ、学校での実践を促す

↓

策定
宮崎市立小中学校の小規模化に対応した
「魅力ある学校づくり」の考え方

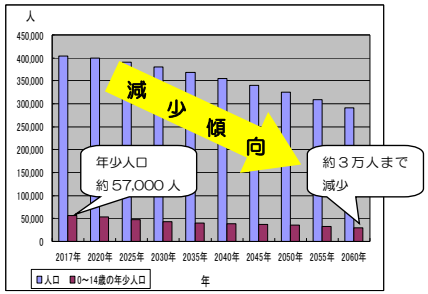
2　本市の現状

（１）児童生徒数と学校数の推移



- 児童生徒数は減少傾向
（ピーク時のS61 年から約２万人減少）
- 学校数は横ばい

（２）本市の人口の将来推計



- 全体の人口、年少人口（０歳から１４歳）ともに減少と推計
（年少人口は２０６０年までに２万７千人減少）

（３）本市の学校規模の推移

①小学校の学校規模

学級数	平成１１年度（A）	令和元年度（B）	B－A
1～5	2	3	1
6	6	5	▲1
7～8	0	2	2
9～11	3	5	2
12～18	19	10	▲9
19～	19	22	3
合計	49	47	▲2

小学校	S58(ピーク)	R1(直近)
児童数(人)	35,042	22,803
学校数(校)	43	47
平均児童数(人)	814.9	485.2

②中学校の学校規模

学級数	平成１１年度（A）	令和元年度（B）	B－A
1～2	0	0	0
3	0	1	1
4～5	1	0	▲1
6～8	1	7	6
9～11	2	4	2
12～18	15	13	▲2
19～	6	0	▲6
合計	25	25	0

中学校	S63(ピーク)	R1(直近)
生徒数(人)	17,821	9,477
学校数(校)	23	25
平均生徒数(人)	774.8	379.1

今後の人口減少を踏まえると、本市の児童生徒数は今後も減少し、学校規模も小さくなっていくことが予想される。

3　学校の小規模化による影響

◎児童生徒数が少ない学校の魅力と課題
- 「学校の小規模化に関する調査（令和元年７月実施）」の結果からまとめ

		魅力（メリット）		課題（デメリット）
児童生徒	1	施設面のゆとり、教材・教具が整えやすい	1	切磋琢磨する機会が少ない
	2	きめ細かな指導・支援が行える	2	クラブ活動や部活動の減少
	3	意見や感想、発表の機会が多い	3	人間関係の固定化
学校・教職員	1	児童生徒の生活や家庭状況が把握しやすい	1	教職員の負担増や指導方法の制約
	2	地域の資源や人材を生かした活動の充実	2	班活動やグループ分け、集団学習の制約
	3	異年齢の学習活動の組みやすさ	3	バランスのとれた教職員の配置が困難

4　小規模化に対応した「魅力ある学校づくり」の方策

（１）魅力（メリット）を生かす方策
- 個別指導などの実施や学習内容定着のための十分な時間の確保
- 家庭や地域と連携した学習面以外のサポート
- 児童・生徒会活動などでの役職の経験
- 学校全体での異年齢活動や協働学習の計画的な実施
- 地域の資源や人材を生かした校外活動や部活動
- 「ＧＩＧＡスクール構想」を見据えた教育活動の展開
- 空き教室を活用した「コミュニティ・スペース」設置など、地域と学校の連携の推進

（２）課題（デメリット）を解消・緩和する方策
- 上級生がリーダー役となった異学年集団での協働学習や体験学習の実施
- 複数の教員による児童生徒の多様な観点での評価や校務の適切な分担
- 全職員で全児童生徒を見守るなどの組織的な対応
- 中学校区の学校間ネットワークの構築による合同授業や合同行事の実施
- ICT を活用した、他校との合同授業の実施
- コミュニティ・スクールを活用した学校づくり
- 他校との合同部活動の実施や地域人材を活用した部活動指導員の配置、地域の特色を生かした活動の創出

5　本考え方の活用

- 今後、小規模化が懸念される学校については、「魅力ある学校づくり」に向けた取組について、地域と連携しながら議論を進めて欲しい。
- 教育委員会としても、他自治体の効果的な取組などを学校へ情報提供するとともに、小規模化に対応した取組を支援していきたい。